

化学教育 徒然草



化学ギークのすすめ

YAMAGUCHI Junichiro

山口潤一郎

早稲田大学理工学術院 教授



巻頭言

この記事を読んでいる貴方はすでに十分「化学ギーク」の域に足を踏み入れていると思う。大学教員になってから、学生に「化学ギークのすすめ」を説いてきた。一般社会にもギーク(マニア・オタク)は多くいるが、彼らは気味が悪いぐらいその事柄について知っている。例えば、アイドルの名前や経歴、スポーツ選手のチーム名やプレイスタイル、世界遺産の歴史まで、あらゆる分野に「ギーク」がいるでしょう。化学に特筆すべきことではないが、いわゆる学問ギークになればそれに対して職がついてくる。大学の先生は偉そうにふんぞり返っているかもしれないが、その分野に特化したただのギークである。つまり、それに関しては気味が悪いほど熟知している。その人達の考え方を聞くには、ギークになるのが手っ取り早い。

英語圏に渡航して英語が全くわからなければ話についていけないでしょう。わかるように努力する、時間をかけてなれる必要がある。専門分野も同じく、日本語であるにも関わらず外国語のような訳のわからない「言語」であるため、全く理解できない。そこで交流するためには「言語」を理解しなければならない。その分野の偉人や研究成果を覚えるのも重要だ。「人の名前を覚えるのは苦手です」とよく聞くが、本当にそうなのか? 筆者は聞いてもすぐに忘れていってしまう年になりつつあるが、化学の話はなかなか忘れない。興味ドリブンで聞いていれば簡単に忘れないものである(と記すと忘れてしまうものに興味がないことが発覚してしまうが)。つまり、ギークになるのは簡単で興味をもつことだが、その後は、インターネットを入り口として、どこかに足を運ばずともその分野について徹底的に調べ上げることができる。題材となるものは、各分野でウェブに点在している。情報過多といわれる現在、普通レベルのギークになるのはそう難しくない。その結果、苦心して情報を得た数少ないギークと、すぐに対等になれるのである。逆に言えば、ギークにならなければコミュニティからおいていかれるだけでなく、信用されず、話もしてくれない。差がつく部分が、以前なら普通と呼ばれる位置にさがっているのだ。いまからでも遅くはない。実際、筆者は大学生後半まで化学ギークどころか、興味はうすく何も知らなかった。本誌を見せられたその貴方、ぜひ「化学ギーク」になることを強くおすすめする。

[連絡先]

169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 (勤務先)